

童話の森 活動レポート 2022

発行 / (特非)ごんのふるさとネットワーク
「童話の森活動レポート2022」はあいち森と緑づくり税を活用して発行しています

「童話の森」とは

「童話の森」は、新美南吉記念館に隣接する一周10分ほどで散策できる小さな森で、新美南吉の代表作『こんぎつね』の舞台とされている場所です。『こんぎつね』は小学4年生の全ての国語教科書に掲載されており、これまで通算7000万人以上に読まれてきた作品。『こんぎつね』の冒頭に「中山」というところに小さなお城があつて、中山さまというおとこのさまがおられたそうです。」とあり、その中山さまというのが戦国時代に岩滑の村を治めていた人で、城が今の童話の森にあつたと言われています。



自然観察路の入り口にある「権狐」草稿碑と、その脇に生えているヒサカキ。



植生豊かな多様性のある森を目指して、毎月有志で森の間伐や整備を進めています。



「童話の森の文化祭」では、アート作品の屋外展示をはじめ、マーケット、子どもミュージカル、上映会など、来場者に森でゆったりと楽しんでもらえるさまざまな企画を実施しました。



整備活動を続けてきたことで、人が入りやすい明るい森になってきました。

南吉童話の世界へつながる森を
より多くの人が訪れ楽しめる場所へ。

童話の森の主な活動

- ▶ 1 森を知り、未来を描く
 - ・森の自然観察会
 - ・ビジョンを描くための勉強会
- ▶ 2 森を整える
 - ・森の清掃
 - ・暗い森の間伐
 - ・落ち葉かき
 - ・新たな植栽
- ▶ 3 森で楽しむ
 - ・童話の森だよりの発行
 - ・童話の森の文化祭
 - ・森の循環のためのワークショップ

童話の森は、童話作家・新美南吉を顕彰する新美南吉記念館に併設された小さな森です。南吉の生まれ育った愛知県半田市岩滑にあり、南吉の生家も歩いてすぐのところにあります。南吉の生きた大正から戦前、この森は岩滑の住民にとって身近で大切な里山でした。南吉さんの作品にはこの森や岩滑地域に生息する植物や生き物、風景が多く登場します。それは、南吉が自分の生まれ育ったふるさとを舞台にお話をかいたから、そこに生きる人々の生活を描いた作家だからです。

この森は人と身近な関係性にあつた里山としての時期から、高度成長期を経てだんだんと人が寄りつかない森へと変わっていきます。その後、南吉の代表作である『こんぎつね』の舞台でもあるこの森を生かし、新美南吉記念館が建てられ、散策路として整備、ただ近年植生が変化し、「ヒサカキ」や「カクレミノ」など陰樹中心の薄暗い数になり、人が入りづらい暗い森になっていました。

そんな中、2020年秋、「童話の

森で。プロジェクト」の活動が始まりました。まずは関心のある有志数名で、この森を数十年にわたり見てこられた地元活動家とともに自然観察会を実施。まだまだ南吉作品に登場する植物や生き物が残り、この森から新美南吉の作品世界へとつながる可能性を大きく感じました。

2021年はこの森を知り、この森をどうしていきたいかを、専門家をお招きしながら考えていくこと、暗い森を明るくし、より多様性のある植生に戻していくための間伐、そしてこの森でどのように楽しめるか、朗読会や上映会にチャレンジしました。

2022年は引き続き、森を知り、森を整えながら、せつかなのでより多くの人に見てもらえるようにと「童話の森の文化祭」を実施しました。多くの方々から森を行き交う光景を見ることができました。

2023年は、森に安定的に人が楽しめる空間作り、森の周りの環境との連動、長期的な構想作りを進めていきます。



童話の森プロジェクトほか
矢勝川周辺情報を発信中!
ローカルメディア「はんの木」
<https://hannoki.org/>



森を知り、未来を描く

森について知る その1
森と仲良くなる
自然観察会を開催

童話の森には新美南吉の作品にも登場する植物が数多く生えています。森林インストラクター伊藤佑三氏のガイドのもと、自然観察会を実施しました。森と仲良くなるために樹木や草花の名前を覚えながら散策しました。



楽しく解説してくれる伊藤さんの自然観察会。樹木や草花の名前や特性を知ると、森の景色が変わってきます。

森について知る その2 森の整備方針を考える

南吉さんと同郷で半田市岩滑出身の愛知学院大学准教授・富田啓介氏をお招きし、森の整備方針について考えました。



整備方針

- ・本来そこにいた生き物がずっと生息できる空間
- ・訪れる人が楽しく快適に過ごせる空間
- ・新美南吉の作品世界を体感できる空間

森を整える その1

整備活動で、人が集う
明るい森を目指して

月に一度、森の清掃、間伐作業、植栽活動を行なっています。最初は数名で始まった活動が今では30名を超える仲間と一緒に活動しています。メンバーは子どもから80代のベテランまでさまざま。新美南吉の作品に出てくるような多様性のある森へ、多様性のあるメンバーで活動しています。

森を整える

森の隣には小さな花壇も。作品にちなんで綿(わた)やサクラソウ、菜の花など、季節の植物を育てています。

森を整える その2

庭師の技術的観点から
植物の剪定を学ぶ

愛知県各所で活動する庭師のワタナベジュンさんをお招きし、森の美しさの観点から剪定や伐採などのポイントを教えてくださいました。



現在の森の植生を見ていただき、成長後を想定した美しい姿を保つ剪定のコツを教えてくださいました。



「童話の森の上映会」にて、ストップモーション・アニメーション「ごん GON, THE LITTLE FOX」を上映しました。

知多半島の食材で作った「童話の森で。朝食ごはん」では、木漏れ日の中、ピクニック気分のランチを楽しんでいただきました。



「童話の森のミュージアム」参加作家による「童話の森のマーケット」。たくさんの方にご来場いただき、ワークショップなどを楽しんでいただきました。



森の散策路内に作品を展示した「童話の森のミュージアム」。いつもとは違うアートな森に大変身。



https://youtu.be/TbQ_ONOVMKQ

セットの準備からすべて手作りの「体験型こどもミュージカル」を開催。かわいいこぎつねたちが森を駆け回ります。当日の様子を公開していますのでぜひご覧ください。



森で楽しむ



「童話の森の文化祭」開催
整備を続けてきて少しずつ明るく人が入りやすくなってきた森に、もっとたくさんの方に来てもらいたい、ということでも、物語が生まれる森。童話の森で会いましょう。をコンセプトに「童話の森の文化祭」を計画しました。新美南吉にインスピレーションを受けた作家とともに実施した「童話の森のミュージアム」ほかさまざまな企画でたくさんの方に童話の森を楽しんでいただきました。10月29日〜11月6日開催。

童話の森で。プロジェクト アートが森を彩る



森の循環を考える

森の間伐木材で
楽しい木工ワークショップ

森で間伐した木材を有効利用するため、木工作家のicura工房 筒井則行氏をゲストにさまざまなワークショップを実施。第一弾は「童話の森の住人たちを作ろう!」。森のヒサカキをカットし、電熱ペンで顔を描き、頭に帽子を被せて完成。一般の方にもたくさんご参加いただきました。

た。第二弾は「バターナイフをつくろう」。森で伐採した生木の枝を小刀で削って作りしました。



生木のしっとりとした感触や木の匂いを感じながら少しずつ小刀で削りました。個性あふれるバターナイフが完成。



同じように作ってもそれぞれ違う味わいに。ユニークな表情の森の住人たちが続々と誕生しました。

